公益財団法人ケア・インターナショナルジャパン2018年度 (2017年7月~2018年6月)年 次 報 告 書



変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に

支援者の皆様へ

ご挨拶

理事長 目賀田周一郎



私ども、ケア・インターナショナル ジャパンは、 2017年、設立30周年を迎えました。この間、世界延 べ76ヵ国で、貧困問題、子どもの健康や教育、女性 の自立や地位向上、そして緊急災害支援に取り組 んで参りました。これまでの活動を支えていただき ました支援組織の皆さま、個人・法人会員の皆さま に心より厚く御礼申し上げます。

戦後の荒廃からの復興に向けて直接被災者を 支援する民間の運動として、CAREの活動は米国で 始まりました。1,000万人もの日本人が戦後復興期 に、「ケア・パッケージ」という緊急支援物資による 援助を受け取りました。当時の日本人が物的のみ ならず精神的にどれほど元気づけられたことかと 思います。高度成長を遂げ80年代には世界第2の 経済大国となった我が国では、恩返しとして、世界 の恵まれない人々を支援すべきだとの立場から、ケ ア・ジャパンが発足。当時、途上国支援の世界的 ネットワークへと発展していたケア・インターナショ ナルに加盟しました。

私どもの活動は、このような志を共にし、貧困を なくし尊厳と安心をもって暮らせる社会を目指すと の理想を共有する個人、企業、支援組織の皆さま に支えられています。従って、支援者の皆さま1人ひ とりのお気持ちを大切にし、それが現場に伝わると ともに、具体的な成果についてもご報告するよう心 がけております。

最近の国際社会には、自国の利益ばかり主張し、 国際協力や弱者に対する配慮を軽視すれる風潮が みられるのは誠に残念なことです。このような状況 においてこそ、人の命を守り、貧困をなくし公正な 社会を目指すケア・インターナショナルの役割の重 要性は増していると思います。国際的な連帯の輪 に積極的に参加する上でも、ニーズに応じた新規プ ロジェクトに取り組むべく、支援者の連帯の輪や支 援企業の裾野を更に広げ、財政基盤の拡充、発信 力や実施体制の強化を図って参りたいと思います。

皆さまの一層のご理解とご支援を、どうぞよろし くお願い申し上げます。

年度総括 事務局長 池田卓生

2018年度は、中期戦略計画策定を取り止め、単 年度ベースでの重要戦略により注力した一年とな りました。基本路線に沿って、各施策を順調に進め ることができたことに加え、複数企業から新規に ご支援をいただいた結果、財務上も回復の兆しが 見え始めました。

国際協力事業については、4件の開発支援事業 をタイ、ガーナ及び東ティモールで継続し、また 2017年末からはミャンマー難民のための緊急支援 において、国内の多くの皆さまにご理解とご支援を いただきました。

啓発普及事業については、例年通り、つながる国 際協力「CAREスマイルギフトキャンペーン」と歩く 国際協力「Walk in Her Shoes」を実施。特に後者に ついては、ケア・インターナショナルとして世界中で 「女性のために歩くイベント」であることを前面に打 ち出したグローバルキャンペーンとしての取り組み を強化しました。そして、日本においても、過去最高 の参加者数を記録し、ご好評をいただきました。

また、2017年末の当財団創立30周年記念イベン トにおいては、当財団の活動がいかに皆さまのご支 援に支えられているのかを改めて実感するととも に、その有難いご支援が30年にも及んでいること に対して、心から感謝する貴重な機会となりました。

当財団の課題は、引き続きCAREの活動や認知度 を地道に高めていくことです。そしてCAREに届けら れた "皆さまが人を想う気持ち"をまずはしっかり と受け止め、その想いを国際協力活動の現場で最 も必要とされる形に変えて、現地の人々に届けてい くことこそが使命であると考えております。その結 果として、当財団が追求する貧困削減やジェンダー 平等の分野で事業成果が上がることこそ、万人共 通の利益となるはずです。

グローバルな課題解決に向けて、何事も微力で はありますが無力ではないと信じて、国際協力活 動に邁進して参りますので、今後とも皆さまのご支 援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



2 0 1 8 年 度 事 業 報 告

開発支援事業

東ティモール 継続事業 学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業 東ティモール 継続事業 農村地域の生計向上事業 P6 継続事業 見幼児の栄養改善事業 **P7** タイ 継続事業 理数系(STEM)教育を通じたリーダーシップ育成事業

緊急 · 復興支援事業

新規事業

バングラデシュ

ミャンマー難民緊急支援事業

Р8

A WORLD OF CARE

Care International Country Presence for FY17

5. Baroladesh 7. Sollyta 9. Burkina FasoV

2. Albania¥

14. Chad 16. Costa RicoV 17 Chie d'Evoire 8. Crostia¥ 19, Cuba of the Congo

26, EHV 28. Georgia 31. Greece¥ 33, Haft! 21. Denmark** 34. Hondorin

39. Jordan 41. Kosovo 42 Lane 44, Liberta* 45, Luxembou 46, Macedonia 47. Madacas 49, Mali

55. Nepal 56. Netherla 57. Nicaragua 58. Nigiri 59. Nigeria¥ AD. Norway*

67. Resenda 48 Section 71. South Africa 72, South Sudan 24: Sri Lanka*

ガーナ(P6) 78. Timor-Leste 乳幼児の 79. Togo¥ 80, Turkey 81. Uganda 83, United State R6. West Rank & 88. Zambia

** CARE International Members and Affiliates ¥ Cimited CARE presence, temporary CARE presence or working through strategic partnerships. O CARE Germany-Luxemburg has offices in both Germany and Luxemburg. A CI Secretariat offices in Switzerland, Belgium and the United States are

part of CARE's international advocacy and humanitarian work.

O Sub-offices have a strong focus on fundraising.

バングラデシュ(P8)

ミャンマー難民

緊急支援事業

タイ (P7)

・理数系(STEM)教育を通じた

リーダーシップ育成事業

02…ご挨拶と年度総括

03…A World of CARE(世界地図で見る事業地)

04…2018年度 事業報告

Contents

09…創立30周年記念イベント報告

10····CARE支援組織活動報告 11···国内活動報告 ~CARE支援の輪~

14…数字で見るCARE(ケア・インターナショナル)の1年

15…数字で見るケア・インターナショナル ジャパン国内活動の1年

16…2018年度 会計報告

18…役員等

19…法人会員

東ティモール(P4-P5) 学習雑誌『ラファエック』を通じた

農村地域の自立支援事業

・農村地域の生計向上事業

CARE International Secretariat:

90. Geneva, Switzerland* 91. Brussels, Belgium* -- New York, United States*

Sub-offices:

-- Selgium® (of CARE France) 92. Czech Republice (of CARE Austria) 93. United Arab Emirates® (of CARE USA)

3

栄養改善事業

継続事業 東ティモール







継続事業 東ティモール

農村地域の生計向上事業

一 持続的で多様な生きる手段の構築と女性のエンパワメントを目指して —



活動地域:エルメラ県アッサベ郡の4村内22集落村 事業期間:2016年2月~2019年6月(3年間4ケ月) 事業規模: 当年度支出額28,438千円(総事業予算:約90,000千円) 主な支援者:外務省、支援組織、ゴールドマン・サックス、個人

活動地域:東ティモール全13県

事業期間:2014年6月~2019年6月(5年間)

主な支援者:支援組織、ゴールドマン・サックス、個人

事業規模: 当年度支出額3,651千円(総事業予算: 年間約1億円*他ドナー資金を含む)

受け取った世帯数

対話ワークショップ*を開催した数

(うち女性は540人)

*単に配布するだけでなく、配布した「ラファ エック」の内容についての理解をより深めるた めに、地域住民を対象に参加型のワークショッ プを実施。本年は11県で開催しました。



学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業

一アジアで一番新しい国の農村部の人たちに生きるチカラを届ける一

アジアで一番新しい国である東ティモールは、国民の約4割が1日1.25ド ル以下で暮らすアジア最貧国の一つ。貧困層の85%は農村部に暮らし、 農村部と都市部の経済・教育格差が顕著となっています。教育言語であ るポルトガル語の成人識字率は都市部で約40%である一方、農村部では約18%と圧 倒的に低くなっています。農村部では十分な識字能力や計算能力を身に付けること ができないため、経済活動や家計の管理に支障をきたし、親の識字能力の低さが子 どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響となって現れています。

活動

本事業では、全13県で年3回の配布を実施。4年目にあたる本年は、これ までの成人向け、未就学・低学年向け、教員向けの3種に加え、小学校の 中学年向けを創刊。本年は特に、子ども向けと成人向けの内容を関連付

けることで、家庭でも情報共有できるよう工夫しました。親子が同じ内容を共有する ことで、子どもの識字能力や学習能力が強化され、また親の識字や計算能力の向上 にも繋がることが確認されました。今後は、紙媒体に加え、SNSなどを活用し、青年 の読者層の拡大を図ります。但し、SNSの利用は都市部が中心であり、農村地域では 旧来型の携帯電話が広く利用され、スマートフォンの普及は限定的である点を踏ま え、対象者層によって紙とその他の媒体を使い分けるなど、ラファエックの情報発信 方法に多様性を持たせる等の工夫が必要とされています。

支援者の声



私はラファエック事業に対して、実際に見学させていただく 前は、多くの疑問を抱いていました。それは、ラファエックが どれだけ使われているのか、読まれているのかということで す。どんなに良いものを作っても、それが実際に使われてい なかったら効果はない。そのように考えていました。しかし、 対話ワークショップに参加して、そのイメージは変わりまし た。地域の方々はみな、真剣に意見を交わし、議論は白熱し ていました。東ティモールの方々が自分自身で、ラファエック

の有効活用について考えることの大切さを感じました。

青山学院高等部 自主学習団体 BLUE PECOのメンバー

農民グループが耕作した野菜の数

トウモロコシの前年度比収穫高



活動地のエルメラ県アッサベ郡は、貧困に苦しむ農村地域で、人々の暮ら しはコーヒー生産とその収入に過度に依存しています。一方で、気候変 動に伴う災害の多発により、その牛産高は安定していません。このような 脆弱な生活基盤に加え、農作業や家畜の世話、市場での農産物の売買等において、 女性が重要な役割を担っているにもかかわらず、生活に関わる意思決定の場への女 性の参加が十分に確保されていません。その結果、地域の貧困が助長されています。

内容

2年目が終了した本事業では、1年次に組織化された14の農民グループに 加え、新たに16のグループが発足。計30のグループが習得した農業技術 を用いて主食穀物と野菜の耕作に取り組み、天候不順の影響にもかか

わらず一定の収穫量を得て、農民世帯の食糧の安全保障と収入獲得に繋げることが できました。特に、野菜の本格導入は、天候不順によるリスクヘッジとなっただけでな く、換金性もあり収入創出源とすることができました。また、農民グループのネット ワークを立ち上げ、作付・生育状況、農業技術や農産物の販売状況等について情報 交換し、成功している他のグループの活動を視察しました。更に、農業活動と並行し て、ジェンダー平等研修、女性のリーダーシップ研修及び男性のジェンダーに関する 意識と行動変容セッションも継続して開催しました。最終年度の3年次では、集合知 による課題解決能力と、将来的に共同販売や共同種子購買を実施できるよう、グ ループ間のネットワークを更に強化していきます。



ナタリノさん 農民グループのリーダー

会計研修を受けるまで、ナタリノさんは、数字を使って価格 を書くこと、特に小数点以下を書く方法を知りませんでし た。それが今では自分で値付けをすることができるようにな りました。「今までは、1ドルとか100ドルなどの大まかな数字 は理解できても、0.05、0.10、0.25や0.50などの小数点以下 の数値の読み書きがわかりませんでした。研修を受けてか らは、小数点や記号を書く方法を学んだので、小さな値から 大きな値まで自分で書くことができます」とナタリノさんは 話してくれました。また、農業活動計画、電卓の使い方、簿記 について学ぶことができた喜びも語ってくれました。

継続事業 ガーナ







理数系(STEM*)教育を通じたリーダーシップ育成事業

一企業と連携して社会性と自律性の高い人材を育成する一



活動地域:アユタヤ県およびラヨーン県 事業期間:2017年4月~2020年3月(3年間) 事業規模: 当年度支出額9,928千円(総事業規模30,000千円)

*「STEM(ステム)」とは、Science(科学)、Technology(技術)、 Engineering(工学)、Mathematics(数学)の頭文字をとった言葉。

選出された女性起業家の数

保護者の延べ人数

*20~25人の女性からなる組織で、各人が少額の現金 を預けグループで管理する仕組み。女性たちは、グ ループで管理する資金から融資を受けることにより、 農作物の加丁・販売、塩などの小分け販売等、各々の ビジネスを起業することが可能になります。自分たち の村や近隣の村の住民がビジネスの顧客となります。



乳幼児の栄養改善事業

一赤ちゃんの栄養改善を目指して、貧困層の女性たちが起業家として活躍一

北部州イースト・マンプルーシー郡は、経済成長が著しいガーナに おいては、極度の貧困状態が残る地域です。ガーナの貧困層のお よそ40%の人々が北部で暮らし、とりわけ、北部州の5歳以下の子ど もの栄養状態は悪く、33%が発育阻害(低身長)、20%が低体重、82%が貧血と されており、この地域の貧困と連動しているといわれています。子どもの栄養

活動地域:北部州イースト・マンプルーシー郡

主な支援者:外務省、味の素ファンデーション

事業規模: 当年度支出額41,113千円(総事業予算:約140,000千円)

事業期間:2016年2月~2019年2月(3年間)

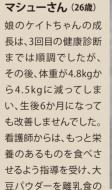
活動

本事業では、乳幼児の栄養改善に向け複数のアプローチを組み合 わせ、相乗効果を得る工夫をしています。2年次にあたる本年は、特 に、栄養啓発活動に注力しました。具体的には、1) 栄養啓発員の選

定と研修、2) 保護者対象の乳幼児の栄養啓発セッション、3) 保護者対象の適 切な食事の摂取習慣に関する調理実演会、4)演劇グループによる寸劇を通じ た栄養啓発活動、5)女性起業家による栄養補助サプリメント「KOKO plus」の 需要創出活動などを実施しました。今後の課題としては、1) 農繁期を避けた活 動時期の調整が必要であること、2)女性起業家間で「KOKO plus」売上のばら つきがあることです。特に、後者については、今後も積極的に戸口を回りながら 指導を行い、本事業終了後も継続して販売活動を促進していけるよう、組合の 運営体制と組合員の意識付けの両側面から強化を図っていく必要があります。

状態の改善は、将来的な貧困の予防の点からも喫緊の課題となっています。

受益者の声



フェリシア・

おかゆに混ぜていましたが、効果はありませんでした。そんな時、村 内貯蓄貸付組合内の栄養教育係より、栄養補助サプリメント 「KOKO plus」が紹介され、フェリシアさんはまず、7袋を購入して毎 日ケイトちゃんに与えてみました。すると1週間で体重にわずかな増 加がみられ、その結果に納得したフェリシアさんは、週に1回、7袋を 買うことにしました。「この嬉しさをどう表現してよいのか分からな いくらいです。もう遠くの低栄養児収容所にこの子を連れて行き、 3ヵ月から半年もの間、預ける必要はないのです」と喜びを語ってく れました。

ワークショップと研修に参加した 生徒の数(うち女子生徒651人)

校内で発足した小規模ビジネスの グループの数

研修を受けた教員の数



中所得国であるタイでは、特に都市部において、高校や大学など高等 教育へ進む子どもたちが増え、学校内外での受験偏重教育が進んでい ます。一方で、地方や農村部においては、最低限の学力を身に着けるこ とのみが優先され、子どもたちは、社会や人との関わりの中で生きていく力やリー

ダーシップ、また職業的な技能を学習する機会に恵まれていません。タイ国内にお ける貧富の格差が益々拡大する中、特に、貧困に苦しむ地域の子どもたち(特に女 子)は、自らの可能性を十分に発揮できず、社会の中で取り残されています。

初年度の活動として本年は、主に、1) 青少年(特に女子) を対象とした ワークショップと研修、2) 教員への研修、3) 地域社会との連携強化を 実施しました。1) については、リーダーシップ研修を通じて、リーダー

シップ、チームワーク、論理的思考方法、発表スキル等を学習。加えて、小規模ビジ ネス起業体験学習を通じて、起業やマーケティングに関する基本的な知識習得、 理数系教育の強化、小規模ビジネスの実践を行いました。また、研修を受けた教 員は、小規模ビジネス起業体験活動などにおいて、子どもたちの活動を支援しま した。今後の課題としては、現地日産自動車の社員や関係者のさらなる参加促進 があげられます。2年次においては、新たに日産自動車の工場が立地する県にある 2校を支援対象校として追加し、工場労働者やその家族をはじめ、地域を広く巻込 んで事業展開を推進していく予定です。





ワルムヤちゃん (15歳)

小規模ビジネス起業体験活動に参加しているワルムヤちゃん は、男子に混ざってグラスエッチング加工を行う商品作りに挑戦 しています。「エッチング加工の方法は先生に教えてもらい、分 からないことは自分でインターネットで調べます。人生で初めて カッターを使うのが、とっても楽しいです。彫刻したガラスに薬 品を流すと反応が起き、透明のガラスがすりガラスのように変 化するのは、とても不思議で、学校のコンピューターの授業の時 間を使って調べ学習もしました」と話してくれました。将来の夢 は、「食べることが大好きだから、シェフになること」。中学卒業 後は、高校の職業科に3年間通った後、料理専門学校に行く明確 な進路計画について話してくれました。

開発支援事業

継続事業 タイ

新規事業 バングラデシュ











創立30周年報告:記念行事

ケア・インターナショナル ジャパン 創立30周年記念イベント

- 30年の歩み、過去、現在、未来 -

開催日:2017年11月25日 開催場所:JICA地球ひろば

協賛企業:アサヒグループホールディングス、セガサミーホールディングス、ビームス、森永乳業、ヤマノビューティメイトグループ



一 女性や女子などもっとも弱い立場におかれた人々に確実に届く支援 一



活動地域:コックスバザール

事業期間:2018年9月~2021年8月(3年間)

事業規模: 当年度支出額8,649千円(資金調達目標150,000千ドル)

主な支援者:支援組織、ゴールドマン・サックス、個人

549 建設したトイレの数

22,631_A

治療を受けた重度の 急性栄養失調の子どもの数

29,000

女性のために設直され スペースの利用者数



課題

2017年8月、ミャンマーのラカイン州北部における連続襲撃事件及びその後の情勢不安定化により、隣国バングラデシュに多数の避難民が流出しました。その多くが何も持たず、数週間歩いて避難し、2018年6月現

在、バングラデシュのミャンマー国境近くのコックスバザールには、91万人以上の難 民が暮らしています。このような人道的な危機に陥る前から、過去30年間にわたり、 紛争から逃れるためバングラデシュには多数のミャンマー人が既に暮らしており、こ れらの人々が安心して安全に帰還できることが求められています。

活動

日本国内においては、2017年12月から緊急募金活動を開始しました。初 動段階において、食糧や生活必需品の配布、保健衛生、栄養改善、避難 所、保護施設、水と衛生の支援を通じて、およそ18万人に直接支援を届

けました。また、急性栄養失調治療のための技術提供も行いました。難民キャンプにおいては、モンスーンへの対策が大きな課題となり、砂利の袋で道路や階段を強化し、排水の水溜りを減らすため清掃を行うとともに、移動をサポートするために、竹製の手すりと橋を建設し、街灯を修理しました。また、暴風雨の影響を緩和するため、構造的なキャンプ全体の改善を進めました。その他、女性の居場所と情報提供センターを設置し、難民の女性たちが交流をしたり、カウンセリングを受けられる環境を提供しました。今後の課題は、難民の安全な帰還です。帰還が実現するまで、難民がより良い生活を送れるよう引き続き活動を行っていきます。

受益者の声



ラハマちゃん(12歳)

ラハマちゃんは、難民キャンプの他の女の子たちとは違い、明るい女の子です。お化粧をすることが好きで、いつもきちんとした身なりをしています。ラハマちゃんは友だちと遊んだり、学校に行くことを楽しんでいます。それは、難民キャンプの学校の先生は、ミャンマーの先生とは違うからです。ミャンマーの先生はほとんど生徒に注意を払いませんが、難民キャンプの先生たちは面倒見がよく、生徒たちにより注意を払い、世話をしてくれるといいます。「大きくなったら、故郷にいた先生ではなく、キャンプの先生のような優しい先生になりたいです」と将来の夢を語ってくれました。



50人イベント参加者の数

5 社 協賛企業の数

紙 創立30周年に関する 新聞報道の数 概要

音楽評論家・作詞家の湯川れい子氏をゲストにお迎えし、当財団創立30周年記念イベントを開催しました。冒頭、目賀田理事長より、ご来場の皆さまに対し、長きにわたるご支援への感謝を申し上げた上で、池田事務局長が、これまでの30年の歩みを振り返りつつ、これからのCAREの長期ビジョンについて発

表しました。

続いて、戦後、「CAREパッケージ(ケア物資)」を受け取られた一人である音楽評論家・作詞家の湯川れい子氏より、当時の思い出を紐解きつつ、CAREパッケージを受け取ったことが現在の音楽を通じた支援活動にどのようにつながっているのかについてお話いただきました。湯川氏は、ご講演後、「戦後アメリカから送って貰ったCAREのビスケットや、ハワイから届いたキスチョコなどの話をして、この日本にも戦災孤児や傷痍軍人が溢れていた時のことを思い出していました。もっともっと伝えて行かなければ…」と感想を述べられました。参加者の皆さまからは、「戦後の貴重な体験などを、湯川さんから生で聞けてよかったで

す。もっと、そういった話を聞く機会があれば嬉しいです」、「とにかく認知度を高めて、より多くの方にCAREの活動を知って頂きたいと、改めて強く感じました」などの声が寄せられました。

ケア・ジャパン初代事務局長 故横田 弘氏のメッセージ 日本は、第二次世界大戦後驚異の経済復興、発展を遂げ、 屈指の経済大国となりましたが、数十年前の戦後混乱期は 現在の途上国の姿にかなり近かったといえます。そのよう

現在の途上国の姿にかなり近かったといえます。そのよう な時期に、ケアは、日本に対して多大なる援助を振り向け、 飢えと貧困にあえぐ私たちの復興に貢献してくれました。 今度は、私たちがこれからできることを途上国の真の経済 発展のためになすべきではないかと思います。

(「ケアー ニューズレター」第1号 (1987年12月発行)より抜粋)



最後に、事務局長より改めて、ご参加いただいた皆さまをはじめ、ご協賛くださった企業の皆さま、そして、これまで当財団の活動を支えてくださった全ての皆さまに感謝をお伝えし、創立30周年記念イベントを閉会しました。

これからも、職員一同、「今度は、私たちがこれからできることを途上国の真の経済発展のためになすべきではないか」という創立者の一人である横田初代事務局長の思いを心に留め、世界から貧困をなくすための活動に取り組んで参りますので、皆さまの一層のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

CARE 支援組織 活動紹介

全国から届いたレポートを 紹介します

ケア・フレンズ

由紀さおりさんをお迎えして、「美しい日本語の歌を伝えたい」と題する 講演会とバザーを開催しました。濁 音と鼻濁音の違いを詳しく説明され、日本語がより美しくなることを 納得しました。1,200人もの皆さまに ご参加いただき、チャリティバザー も大盛況となりました。



設立25周年を迎えました

設立25周年記念講演会・バザー(2018年3月3日)

ケア・フレンズ 東京



第20回記念講演会・バザー(2018年2月12日)

雅楽師の東儀秀樹氏をお迎えし、「雅楽の愉しみ」という演題でご講演いただきました。平安装束をまとい篳篥を演奏されながらのご登場に、瞬く間に東儀様の世界に魅了されました。後半は、お洋服に着替えられ、ピアノを弾かれる姿に、何千年かの時をご一緒に過ごした想いにかられ、感動のひとときでした。

ケア・サポーターズクラブ 能**太**



第12回チャリティ講演会・バザー(2018年4月15日)

「ベルサイユのバラ」の原作者として有名な 池田理代子様を講師にお迎えして、第12回 チャリティ講演会を開催。「ベルばら秘話と 私の人生」と題して、ご講演をいただきまし た。また、池田様は声楽家でもあり、夫・村田 孝高様とのコンサートも楽しみました。

ケア・フレンズ **長野**



南ティモール**坦**変旅行(2017年10日23日~28日)

東ティモール現地視察旅行に、ケア・フレンズ長野から3名で参加しました。CARE東ティモールのスタッフと交流後、小学校を訪れ、学習雑誌「ラファエック」を配布。子どもたちの喜ぶ姿に感銘を受けました。東ティモール大使とも交流でき、有意義な視察旅行となりました。

ケア・サポーターズクラブ **千葉**



設立5周年記念式典(2017年10月13日)

全国から300名近くのお客さまにお集まりいただき、設立5周年記念式典を開催。会員やで参加いただいた皆さまとともに、喜びを分かち合う機会となりました。北の富士親方による特別講演では、相撲道の精神、そして何事にも真剣に取り組むことの大切さについて教えられました。

ケア・サポーターズクラブ **大分**



チャリティバザー(2017年11月18日)

ホルトホール大分 エントランスホールにて、 毎年恒例のチャリティバザーを開催しました。会員持ち寄りの品物を前日までに集め、 役員で値付けをしました。当日、会場ではたく さんの人々がお目当ての品物を見つけられ、 飛ぶように売れました。

ケア・サポーターズクラブ **佐賀**



設立1周年記念講演会・リサイタル(2017年9月18日)

歌手の河野克典様とピアニストの山本佳代子様をお招きして、「日本の歌 語りの藝術」と題した講演会とバリトンリサイタルを開催。美しい歌声に皆、心奪われ、楽しい時間を過ごしました。慣れない中、初めてのチャリティバザーも行いました。

3月8日「国際女性の日」 歩く国際協力「Walk in Her Shoes」

途上国の女性や 女子が毎日水汲 みなどのために 歩く8,000歩を体 験する「チャリ ティウォーク」。7 年目を迎えた本 年度は、全国各



地や海外からのオンライン参加の促進に加えて、5つの関連 イベントを実施しました。延べ564名もの皆さまにご参加い ただき、キャンペーン期間を通して歩いた歩数は、1億3,202万 歩に達しました。

新たにキャンペーン公式InstagramとTwitterを開設するなど、拡散による広報強化にも力を入れ、Instagramについては1,000人超える皆さまにフォローいただきました。さらに、味の素株式会社及び三菱商事株式会社によるご協賛をいただき、写真投稿につき50円が寄付される仕組みを実現。世界中から、CAREの「C」をテーマとする写真計814枚が寄せら



また、東京と大阪でのイベントの企画及び実施にあたっては、たくさんのボランティアの皆さまをはじめ、多様な団体や大学等教育機関の協力

を得て、見どころ満載のコース設定や趣向を凝らしたアクティビティなど、これまでとは違う新しい取り組みを実践することができました。いくつかのイベントを紹介します。

※本キャンペーンやイベントへの参加費及びご寄付等は、諸経費を除き、ガーナ「乳幼児の栄養改善事業」に充てさせていただきます。

2017年10月9日(参加者17人)

コスモスゆれるしながわ花海道 チャリティウォーク

秋晴れの中、ゆったりとコスモスや秋の花々を楽しみながら、東京の鮫洲駅から品川区民公園までのコースを歩きました。ウォーキングの後には、山形の郷土料理「芋煮」を作って 懇親を深めました。



CARE支援の輪

様々な形で活動を支えて 下さっている皆さまを紹介します

2018年3月3日(参加者37人) 上野・日暮里下町チャリティウォーク

東京の上野公園から谷中銀座 商店街まで、根津神社や根津商 店街など下町情緒溢れる道のり を歩きました。谷中銀座商店街 振興組合にご協賛・協力をいた だき、割引クーポン等サービス のご提供やチラシ配布へのご 協力をいただきました。



2018年5月26日(参加者86人) アフリカデー・大阪チャリティウォーク in 服部緑地

ミズノ株式会社(特別協賛)のご協力で、大阪の服部緑地の一部を借り、新緑あ ふれる公園内を3グループに分かれて歩きました。アクティビティ地点では、関西

学院大学の学生の皆さんが、水に関するクイズや水のろ過実験などを実施。また、武庫川女子大学の学生には、当日の運営ボランティアとしてご参加いただきました。



【自主企画イベント】2018年4月30日(参加者110人) まちなかチャリティウォーク in 宮崎

ガールスカウト宮崎県連盟がチャリティウォークを企画、実施しました。地元商店や道の駅、メディアなども広く巻込み、世界の水問題を扱ったクイズやガーナ

に贈る絵を描くアクティビティの 実施に加えて、フェアトレード商 品等を販売するバザーを開催。 参加費や物販による収益金か ら、113,267円をご寄付いただき ました。また、書き損じはがきや 古切手の収集にもご協力いただ きました。



つながる国際協力 「CAREスマイルギフトキャンペーン」

東ティモール独立10周年を記念して開始したキャンペーン。6年目とな る本年度は、9月8日の「国際識字の日」から1ヵ月間実施。53名の個人 の皆さま他、株式会社学研ホールディングス、飛島建設株式会社、葉山 インターナショナルスクールをはじめ、たくさんの方々にご参加いただ きました。皆さまからいただいたご寄付を、42,000冊分の学習雑誌「ラ ファエック」に変えて、東ティモールに届けることができました。

●花王ハートポケット倶楽部 運営委員より

※花王株式会社及び花王ハートポケット倶楽部より、 助成金をいただきました。

国の教育レベルを向上させていくことが、将来、その国が発展していく ための礎となることは間違いありません。学習雑誌「ラファエック」に より、まずは、特に農村部における識字率を向上させ、国として平準化 させいくことで、今、学んでいる子どもたちが将来先生となって教育の 輪を広げ、レベルを向上し、国を発展させていくことにつながるため、 重要な取り組みであると思います。



●東京学芸大学附属国際中等教育学校のボランティア部長より ※学生が主体となり、寄付付きLINEスタンプ「ふじぽん」を 制作・販売。売上の一部をご寄付いただきました。

寄付付きLINEスタンプの製作・販売を通して、実際に多くの人に購入し てもらえたことがとても嬉しく、また少しですが、寄付の力について広 めることができたのではないかと実感しています。中高生に身近な LINEでの寄付ということで注目はされましたが、思ったよりは販売数 が伸びませんでした。今後も、たくさんの人に寄付の魅力を知ってもら うことを目指し、活動していきます!

ファンドレイジング・ボランティア

CAREのファンドレイジング・ボランティアの「第10期CAREファンドレイ ジングチャレンジ!チーム」と「CARE+」の皆さまに、歩く国際協力 「Walk in Her Shoes 2018」の関連イベントとして、チャリティイベント を企画・実施いただきました。

●2018年6月3日

カカオ豆から作るBean to Bar! 手作りフェアトレードチョコレート体験

ボランティアグループのCARE+との共催で、「カカオ豆から作るBean to Bar! 手作りフェアトレードチョコレート体験」を実施。26人の皆さま にご参加いただき、一緒に、ガーナ産のフェアトレードカカオ豆を焙煎 する過程から、本格的なチョコレート作りを体験しました。また、ガー ナの「乳幼児の栄養改善事業」についての活動報告も行いました。



●2018年4月1日

TOSHIMA さくらWALK ~WALK for GHANA~

半年以上かけて企画、準備を行い、「TOSHIMA さくら Walk ~WALK for GHANA~」を主催。当日の運営まで一貫して担っていただきまし た。当日は、桜吹雪が美しく舞う中、ソメイヨシノ発祥の地とされる東 京・豊島区を舞台に、67人の参加者が、雑司ヶ谷から駒込までの桜の 名所を巡るコースを楽しみました。

更に、NPO法人一期JAMがアフリカの楽器「ジャンベ」のワークショッ プ、また学習院大学の国際協力団体Anchorが、民族衣装着付体験や アフリカの桜「ジャカランダ」を折り紙で作るワークショップなどの企 画に協力。その他、駒込染井吉野桜祭実行委員会をはじめ、たくさん の皆さまにご協力をいただきました。



あつめて国際協力

書き損じはがきや切手(未使用・使用済)、各種商品券、読まなくなった 本・CDなどを集めて、換金し、国際協力活動につなげる取り組みを 行っています。物品の寄付(再利用)を通じて、共に途上国の貧困問題 の解決を目指します。例えば、書き損じはがき1枚のご寄付は、東ティ モールの子どもたち向けの学習雑誌3冊を制作するための資金に相当 します。本年度は、多様な買取業者との連携*により、ブランド品や洋 服、宝石、美術品、骨董品、貴金属、家電、PC、スマートフォンなど、寄付 の対象商品も格段に増え、よりご参加いただきやすくなりました。

*買取査定額に、一部寄付金を上乗せした金額が、買取業者より当財団に寄付されます。

●CARE支援組織「ケア・フレンズ東京」より

毎月の例会の際に、各会員が切手や書き損じはがきなどを持参し、文 化部が中心になって取り纏めを行っています。すぐに集まるものでは ないので、例会の度に、協力について周知をするなど、日頃からの収集 活動の習慣づけの啓発を大切にしています。また、毎年1回のチャリ ティ講演会では、2千人に及ぶ参加者の皆さまに対して「あつめて国際 強力」のチラシを配布し、広くご協力をお願いしています。

CARE支援の輪



●仕訳ボランティアの平山様、安井様より

主に、支援者の皆さまから送られてくる物品の仕分けや計量を行って います。中には、段ボールいっぱいの切手を送ってくださる企業等も少 なくなく、驚かされます。また、海外の珍しい切手なども多く、その種 類の多さに加え、日本切手の美しさや精巧さに感動しながら、楽しく 活動しています。隔週で半日のペースの活動ですが、途上国の女性や 子どもの支援に繋がっていると考えると、とてもやりがいがあります。

企業パートナーシップ

2030 年までに達成すべき世界共通の目標を定め た SDGs (持続可能な開発目標) が、2016年1月 に本格的に施行されたことを受け、持続可能な社 会の実現と企業の一層の成長を見据え、多くの企 業が SDGs をビジネス戦略に統合する動きを加速 させています。当財団でも、法人会員やご寄付、 商品・サービスのご提供などのご支援に加えて、 海外での協働事業展開や社員ボランティア・プロ ボノの受入、また企業による寄付付き商品販売に おけるタイアップなどを推進しています。共通の 目的のもと、様々な形態による連携を行うことで、 双方の「違い」を「力」に変えて、社会的インパ クト拡大を目指します。

●公益財団法人味の素ファンデーション シニアマネージャー 上杉高志様より

ガーナ栄養改善プロジェクトは、多くのパートナー (学術機関、政府機関、NGO、民間企業等)の方々に 支えられながら進めており、CAREの皆さんには北部 農村地域での活動にご協力いただいています。国内 で最も栄養課題が深刻な北部州の60もの農村集落 において、村内組合や女性の自立支援の基盤での栄 養教育を通じ、乳幼児栄養サプリメント「KOKO Plus」の浸透活動にご尽力いただいています。ガーナ の子ども達の健やかな成長を願って、日々地道な活 動を継続いただいているパートナーの皆さんに感謝 しながら、プロジェクトを進めています。





●日産自動車株式会社

サステナビリティ推進部課長 大石朋子様より







13

リーダーシップ育成プログラムを導入しているアユタヤの学校を訪問し、16~18 歳の生徒たちや先生方とお会いしました。リーダーシップキャンプに参加した時 の様子やプログラムの一環である課外活動の内容を、少しはにかみながらも、目 を輝かせて楽しそうに説明してくれる子どもたちの姿を見て、こちらも胸が躍る 思いでした。普段の授業では得られないさまざまな経験や学びをたくさん吸収 し、自らの手で新しい時代を切り開いていってほしいと思います。これからも CAREさんとともに、少しでもお手伝いができれば幸いです。



数字で見る ケア・インターナショナルの1年

支援国の数国

実施プロジェクトの数(事業)

スタッフの数(人)

62,932,000

216,042,356 間接受益者数(人)





事業別直接受益者の数(数字は人数)

受益者の数トップ10(数字は人数)

1	インド	24,367,689
2	バングラデシュ	11,350,719
3	エチオピア	2,957,326
4	ケニア	1,682,894
5	ソマリア	1,618,918
6	ガーナ	1,458,353
7	マラウイ	1,449,966
8	イエメン	1,413,819
9	ネパール	1,395,803
10	ジンバブエ	1,146,861





健康と権利



__ტ__ 女性の経済的 エンパワメント 2,611,052

数字で見る ケア・インターナショナル ジャパン国内活動の一年



プログラム参加者数



つながる国際協力「CARE スマイルギフト キャンペーン 2017」参加者数

facebook のファン数

3,620 「あつめて国際協力」への

「Walk in Her Shoes 2018」



個人による一年間の延べ寄付件数

当財団ホームページへの アクセスページ数 258,430 ~- ジビュー(PV)



新聞掲載およびテレビ放映等の

物品・サービス提供による 支援の寄付相当額

1,266,710

CARE 支援組織の会員数 566人/社



個人会員数 74_{\wedge}



2018年度 会計報告

正味財産増減計算書(2017年7月1日~2018年6月30日)

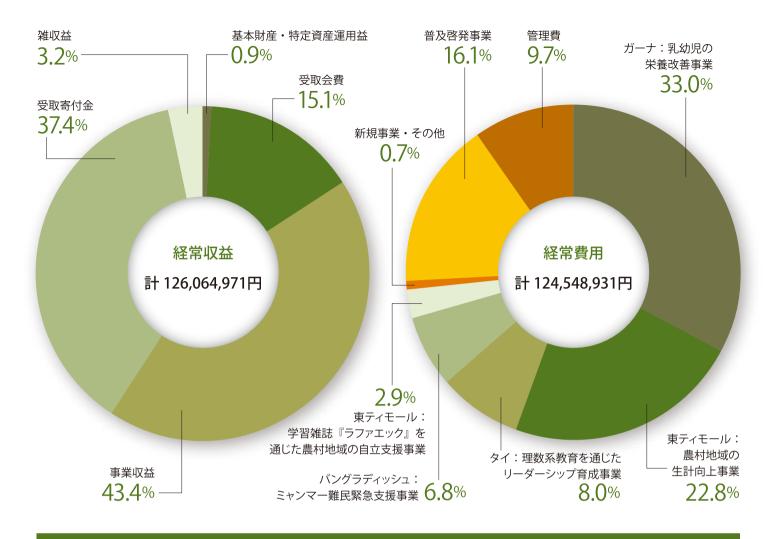
【単位:円】

工.水沟,至省/%时,并自《			【単位:円
科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
基本財産・特定資産運用益	1,168,750	373,750	795,000
受取会費	19,063,600	17,556,000	1,507,600
事業収益	54,669,740	66,101,432	△ 11,431,692
受取寄付金	47,168,919	32,975,010	14,193,909
雑収益	3,993,962	2,221,668	1,772,294
経常収益計	126,064,971	119,227,860	6,837,111
2.経常費用			
国際協力事業費	92,489,578	83,601,657	8,887,921
マーケティング事業費	20,035,722	23,650,149	△ 3,614,427
管理費	12,023,631	11,057,392	966,239
経常費用計	124,548,931	118,309,198	6,239,733
評価損益			
基本財産·特定資産評価損益等	△ 1,379,650	△ 816,975	△ 562,675
投資有価証券評価損益等	△ 42,930	16,807	△ 59,737
評価損益等計	△ 1,422,580	△ 800,168	△ 622,412
当期経常増減額	93,460	118,494	△ 25,034
3.経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
4.経常外費用			
投資有価証券減損損失	60,750	0	60,750
経常外費用計	60,750	0	60,750
当期経常外増減額	△ 60,750	0	△ 60,750
当期一般正味財産増減額	32,710	118,494	△ 85,784
一般正味財産期首残高	42,755,166	42,636,672	118,494
一般正味財産期末残高	42,787,876	42,755,166	32,710
Ⅱ 指定正味財産増減の部			0
受取寄付金	47,590,121	25,447,581	22,142,540
一般正味財産への振替額	△ 38,819,820	△ 16,337,140	△ 22,482,680
当期指定正味財産増減額	8,770,301	9,110,441	△ 340,140
指定正味財産期首残高	10,390,790	1,280,349	9,110,441
指定正味財産期末残高	19,161,091	10,390,790	8,770,301
Ⅲ 正味財産期末残高	61,948,967	53,145,956	8,803,011

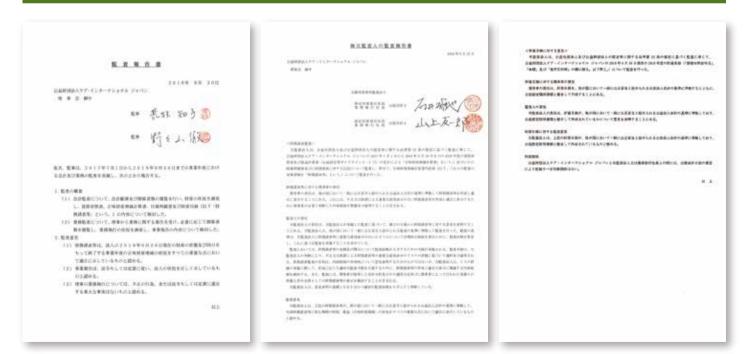
貸借対照表 (2018年6月30日現在)

【単位:円】

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	53,324,467	39,172,929	14,151,538
前払事業費用	19,367,608	31,522,456	△ 12,154,848
未収金	11,585,412	8,861,196	2,724,216
貯蔵品	380,454	416,768	△ 36,314
前払費用・前払金・その他	758,244	1,275,234	△ 516,990
流動資産合計	85,416,185	81,248,583	4,167,602
2. 固定資産			
基本財産	27,022,125	28,401,775	△ 1,379,650
その他固定資産合計	6,449,910	6,992,402	△ 542,492
固定資産合計	33,472,035	35,394,177	△ 1,922,142
資産合計	118,888,220	116,642,760	2,245,460
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
前受事業収益	28,683,954	47,713,059	△ 19,029,105
未払金	25,951,483	14,057,139	11,894,344
前受会費	1,728,000	1,656,000	72,000
預り金	575,816	70,606	505,210
流動負債合計	56,939,253	63,496,804	△ 6,557,551
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·	
負債合計	56,939,253	63,496,804	△ 6,557,551
負債合計 Ⅲ 正味財産の部	56,939,253	63,496,804	△ 6,557,551
	56,939,253 19,161,091	10,390,790	△ 6,557,551 8,770,301
Ⅲ 正味財産の部			
Ⅲ 正味財産の部 1. 指定正味財産	19,161,091	10,390,790	8,770,301



監査報告書



謝辞

ゴールドマン・サックス、日産自動車株式会社、ケア・フレンズ東京、カランマス・セジャトラ社、ケア・フレンズ岡山、ケア・フレンズ長野、ケア・サポーターズクラブ佐賀、

ケア・サポーターズクラブ大分、ケア・パートナーズ金沢、ケア・サポーターズクラブ熊本、出張勝治様他、 たくさんの個人・法人の皆さまからのご支援に対しまして、心より感謝申し上げます。

役員等

法人会員

(2018年6月30日現在)

名誉会長	柳井 俊二	国際海洋法裁判所判事
顧問	稲川 素子	株式会社稲川素子事務所代表
	小泉 淑子	シティユーワ法律事務所 弁護士
	山東 昭子	参議院議員、元科学技術庁長官、元参議院副議長
	日枝 久	株式会社フジテレビジョン 取締役相談役
代表理事(理事長)	目賀田 周一郎	中央大学法学部教授、元メキシコ駐箚特命全権大使
代表理事(副理事長)	黒川 千万喜	元公益社団法人トヨタ財団 常務理事
理事	岩動 達	株式会社ペンタインターナショナル 代表取締役
	岩田 喜美枝	東京都監査委員
	上野 宏	株式会社村田製作所取締役監査等委員、元大阪国税局長
	小島 明	公益社団法人日本経済研究センター 参与
	田中 由美子	城西国際大学招聘教授、元JICA国際協力専門員(ジェンダーと開発)
監事	荒牧 知子	公認会計士•税理士 荒牧公認会計士事務所
	野々山徹	元株式会社富士銀行 常務取締役
評議員	安倍 洋子	ケア・フレンズ東京 会長
	加藤 睦子	ケア・フレンズ岡山 名誉会長
	河野 洋子	カランマス・セジャトラ社 取締役
	近藤 茂夫	三菱重工業株式会社 総務法務部顧問
	今野 秀洋	一般財団法人貿易•產業協力振興財団 理事長
	篠沢 恭助	公益財団法人資本市場研究会理事長、元大蔵事務次官
	紿田 英哉	アークヒルズクラブ 専務理事
	髙橋 衛	ドイツ証券株式会社 コンサルタント、株式会社パレスホテル 顧問
	田中皓	公益財団法人助成財団センター 代表理事・専務理事
	平林博	公益財団法人日印協会代表理事・理事長、元駐インド及び駐フランス大修
	山本 卓弘	社会福祉法人野菊寮(御殿場コロニー) 理事
	渡邊 美佐	株式会社渡辺プロダクション名誉会長













































アサヒグループホールディングス株式会社

カランマス・セジャトラ社

株式会社再春館製薬所

株式会社サラダコスモ 株式会社サラスバ

神社本廳

新日鐵住金株式会社

セガサミーホールディングス株式会社

全日本空輸株式会社

大成建設株式会社

東レ株式会社

日産自動車株式会社

日本電信電話株式会社

株式会社日立製作所

株式会社ビデオエイペックス

株式会社フジテレビジョン

三井物産株式会社

三菱重工業株式会社

三菱商事株式会社

ミマスクリーンケア株式会社

山崎情報設計株式会社

株式会社ヤマノビューティメイトグループ

株式会社ロッテ

株式会社 渡辺プロダクション

(2018年6月30日現在)

ビジョン:

CARE は、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望 に満ちた、寛容で公正な世界を目指します。

ミッション:

CARE は、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、 世界中でその実現に向けて取り組みます。

フォーカス:

CARE は、女性と女子を活動の中心にすえます。

貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会 を得る必要があるからです。

ケア・インターナショナル ジャパンの活動:

ケア・インターナショナルジャパンは、世界90ヶ国以上で人道支援活動を行 援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。 特に「女子教育」「女性の経済的エンパワメント」「母子保健」の分野に注力し、 最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。

長期ビジョン 2020:

私たちの目指す社会

- 1.「女性と女子」の自立支援を通じて貧困のない社会を目指します。特に、 女子教育、生活向上、母子保健の3領域に注力します。 私たちらしい支援
- 2. 最も弱い立場におかれた人々や支援の届きにくい地域の人々に、現地協力 者との連携を大事にしながら、確実に支援を届けていきます。
- 3. 緊急支援の能力を高め、国内外の自然災害に対し、より迅速かつ効果的 に対応します。特に、東日本大震災での学びを今後に活かしていきます。
- 4. 支援対象国の人々と日本の支援者をつなぐ役割を果たすことで、共に社会 課題の解決に取り組む世界の実現に貢献します。 私たちの目指す組織と人財
- 5. 組織や事業の透明性を高め、あらゆる説明責任を果たすことで、幅広く共 感を得て支持される団体になります。
- 6. 多様な人財と新しい価値観を尊重し、職員の成長と連帯を高めることで、 長期ビジョン 2020 達成への一人ひとりの貢献度を高めます。



公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階 TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375 Email:info@careintjp.org http://www.careintjp.org